

## リアルタイム現地情報

「ミニトマトの品種選定の会議が開催されました」

10月7日(木)にJAほこた営農経済センターにおいて標記会議が開催され、部会員7名が出席しました。

JAほこたトマト部会研究部では、現在栽培している品種よりも安定的に高収量をあげられる品種の選定として、今年度は春作(4月～8月収穫)で9品種、抑制作(8月～11月収穫)で11品種の比較を行いました。

会議では、普及センターから、着果数や果実重などについての春作の試験結果及び抑制作の途中経過について説明しました。試作品種を栽培した生産者からは、「試作した品種には、ツヤが無いものや長玉、着果数が少ないものがあったため、優良品種をしっかりと見極めたい」との意見が出されました。今年の試験で有望だった品種は来年度も引き続き比較を行い、年次変動等を確認していきます。

また、近年、黄化葉巻病が問題となっているため、黄化葉巻病耐病性品種を導入した際の注意点として、①耐病性品種は病徴が現れにくく、対策として有効だが、黄化葉巻症状が見られなくてもウイルスに感染した耐病性品種は感染源となるので、感受性品種と同じハウスでの栽培を避けること、②感受性品種の栽培と同様のタバココナジラミ防除対策を行うことを説明しました。

銚田地域農業改良普及センター(儲かる農業)



会議の様子